

シンポジウム25

骨粗鬆症診療のAI DX

日時 2026年9月12日(土) 10:30~12:00

会場 第6会場 (3F 中会議室302)

座長 福田 文雄 (北九州総合病院)
大湾 一郎 (沖縄赤十字病院)

セッション概要

骨粗鬆症診療におけるAIと医療DXの実装例を集めたセッション。単純X線やスマートフォン画像からの骨密度推定・椎体骨折定量評価、患者管理台帳や地域連携の電子化、二次性骨折予防の業務標準化まで、診断支援から診療体制の効率化までを共有する。

演題プログラム

2-SY25-1 人工知能（AI）を用いた骨粗鬆症診断支援ソリューションの国内成人女性における識別能評価
西野 勝敏 (新潟リハビリテーション病院)
成人女性約1,100名の単純X線像からAIで推定した骨密度をDXAと比較し、高い相関と識別能AUC0.9以上を示し、スクリーニング活用の可能性を示す。

2-SY25-2 AI椎体骨折定量評価ソフトウェアの開発と骨質・健診領域への展開
荒川 翔太郎 (東京慈恵会医科大学整形外科科学講座)
側面X線から椎体高比を自動算出するAIソフトの開発と性能検証に加え、軽度椎体変形と骨質マーカーの関連、健診での基準値作成の試みを報告する。

2-SY25-3 AI姿勢推定による脊柱アライメント解析と骨粗鬆症リスク予測の検討
小川 貴久 (東京科学大学 医療創薬イノベーション機構)
スマートフォンの立位側面画像からAI姿勢推定で脊柱アライメントを抽出し、年齢・性別を加えたSVMで骨密度低下を精度82.0で予測できることを示す。

2-SY25-4 骨粗鬆症診療における医療DXの推進
樋口 祥平 (社会医療法人抱生会丸の内病院)
Accessによる骨粗鬆症患者管理台帳の運用と地域連携機関の診療内容マップ化の成果を振り返り、生成AI導入など今後のDX課題を検討する。

2-SY25-5 医療DXを活用した大腿骨近位部骨折における二次性骨折予防体制の構築と効果
田中 暢一 (ベルランド総合病院クオリティ管理センターFLS推進室)
大腿骨近位部骨折の二次性骨折予防をワークフローと情報シートで標準化し、手書き作業の実質ゼロ化と多職種による実施率向上を報告する。